

5年2組 道徳科学習指導案

授業者 竹中 公香

- 1 主題構成表
 主題名 誠実に
 資料名 こわれてしまった さく

■ 内容項目 A 正直，誠実
 誠実に，明るい心で生活すること。

■ 価値の分析

- ・偽りなく真面目に真心をこめて，明るい心で楽しく生活することに関する内容項目である。「正直，誠実」は，内容項目Aの視点の内容項目「善悪の判断，自律，自由と責任」とBの「礼儀」，Cの「規則の尊重」「公正，公平，社会正義」などに深く関連する内容である。児童が偽りなく真面目に真心を込めて，明るい心で楽しく生活するためには，約束や法，きまりの意義を理解したうえで，物事の善悪について的確に判断し，他者への真心を大切にしてい，公正，公平に振る舞うようになることが求められる。
- ・低，中学年までに求められた，素直に自分の非を認め謝ることや，仲間集団に安易に流されることなく，強い心をもって正直に行動することから，高学年では，他者の受け止めに過度に意識せず，自分自身に誠実に生きようとする態度を養うことが求められる。また，よくないと思ったことは傍観者とならず，誠実な態度で対処していくことも大切になってくる。
- ・他者による自分の評価がどうであろうと，自分自身が考える誠実な生き方を実行していくことの大切さに目を向けさせたい。よって，他者の判断に左右されず自分が正しいと判断したことを責任をもって実行していくことが自分自身にとって 誠実に生きることになるということを考えさせたい。また，誰に対しても公正，公平な態度で接することが誠実さの一つであるということにも気付かせたい。

■ 内容項目から見た児童の実態

- ・児童は，正直な態度で生活することの大切さはよく理解している。また，嘘や偽りがよくないことも知識として十分に知っている。しかし，実際にそういった場面に出会ったとき，自己保身のために安易に嘘をついたりごまかしたりしようとする場合が多い。
- ・こういった態度が正しいかを理解していても，相手のとの関係性や周囲とのこれからの関係の変化を好まず，傍観的にやり過ごそうとする態度の場面も多い。
- （要因）
- ・自分の都合の悪いことをやり過ごすことができれば，周囲にどのような影響があってもいいとか，自分さえよければとかという自己中心的な考え方がある。
- ・周囲に流されやすかったり，周囲からの評価を気にするあまり，本当に正しい行動が判断しにくくなっている。
- ・誠実な行動を取った結果，すがすがしい明るい気持ちで生活できた経験が少ない。

■ 資料の分析

- こわれてしまった さく
- ・誰もが誠実に生きたいと思いつながら，誠実に生きることの困難さは様々な場面に存在している。その困難な場面をそれぞれの立場での弱さとして，日常生活の具体的な場面で取り上げた資料である。
 - ・過ちを犯し，ごまかそうとするAの心情を考え，自己中心的な考えの弱さを押さえる。また，Aの言動に流されて，同じようにごまかそうとする行動をしたBの心情を考える。そこで，他者による自分の評価を過度に気にすることで正しい判断ができなくなることがあることを理解させる。さらに，自分の中にもありがちなことであると気づき，Bの心情に共感させる。
 - ・さらに，二人の言動に対して，よりよい行動をとったCの立場になって，その心情を考える。Cについての話し合いを通して，葛藤しながらも誠実に行動したCに共感させ，他者の評価や判断に左右されず，誠実に行動した後の明るい心にも触れ，誠実に行動する態度を育てる。

■ ねらい

他者の判断に左右されず自分自身が正しいと判断したことに責任をもつことの大切さや，どんなときも公正，公平な態度で接することが誠実さの一つであることに気づき，自己を見つめ，誠実に，明るい心で楽しく生活しようとする態度を育てる。

■ 展開の構想

- ・資料を読んで感想を交流し，本時の道徳的問題の所在を明らかにする。
- ・自分の過ちをごまかそうとするAの自己中心的な考えや，他者の評価に左右され，正しい判断ができなかったBの心情を考えさせることで，自己の内面的弱さに気付かせ，共感させる。
- ・自分の弱さと葛藤しながらも正しい判断に基づき，誠実な行動をしたCの気持ちに共感することを通して，誠実であるために必要なことについて気付かせる。
- ・自分の生活を振り返り，誠実に明るい態度で生活できたことについて交流し，これからもそういう態度で生活しようとする意欲を高める。

■ 判断力・心情・実践意欲を高める工夫

- 〔中心発問〕『役員さんの所に行こう』と言った時のCは，どんな気持ちでしょう。』という問いで，誠実であるために必要な心情について気付くことができるようにする。
- 〔言語活動〕展開前段で，Cの心情を考えるとときに考えをノートに書く活動を通して，Cの取った行動の奥にある葛藤や誠実な行動を支えた心情について気付くことができるようにする。また，交流を通して他者理解を深めることができるようにする。
- 〔学習形態〕展開前段でCの心情を書いた後でグループ交流を位置付けることで，他者理解を通して，さらに自己理解を深められるようにする。また，展開後段に自分の生活を振り返る場面でもグループ交流を行い，価値理解をより確かにし，これからの生活への意欲を高めることができるようにする。

■ 道徳科と他の教育活動との関連 （ 補充 ・ 深化 ・ 統合 ）

道徳科「こわれてしまった さく」→国語「声に出して楽しもう論語」→他の教育活動「帰りの会 班会議」→保健「心の健康」 これまで「善悪の判断」「規則の尊重」「公正，公平」について道徳で学んできたが，それらの心情に支えられた「正直，誠実」であるということに気付く。また，それらの価値につながりを感じ，それらのつながりと自分との関わりについて理解をし，どんなときも誠実に明るい心で楽しく生活しようすることができるようにする。

2 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	◇誠実について話し合う。 ○「誠実」とは、どんなことだと思うか。 ・正直に行動しようと思う気持ちのことだと思う。 ・本当のことをいうのだと思う。	・ここでは、出された気持ちの根拠などは深く追究しないで、本時の課題へとつなげる。
展開 前 段	◇資料「こわれてしまった さく」を読んで話し合う。 「誠実」であることについて考えよう。 ○Aが「ないしょにしておこう」と言ったのは、どんな気持ちだったのだろう。 ・だれも来ないような所だからばれないだろう。 ・壊そうと思って壊したのではないのだから、自分たちは悪くない。 ・叱られるのは嫌だ。 ○黙ったままのBはどんな気持ちだったのだろう。 ・本当のことを言った方がいいと思うが、Aの言う通り、このままにしておこう。 ・自分の考えを言ってAからどう思われるか、心配だ。 ・どうしたらいいのか…自分では決められない。Aの言う通りにしよう。 ◎Cが「役員さんの所に行こう」と言ったのは、どんな気持ちからだろう。 ・叱られるのは嫌だけれど、ごまかすのはよくない。 ・弁償することになるかもしれないけれど、壊したのは自分たちだから本当のことを言った方がいい。 ・壊したことがばれなくても、自分たちが壊したことは事実だ。これは、ごまかしようがない。 ・本当のことを言わないと、心がもやもやするから嫌だ。 ・その場しのぎの嘘を言うのは、周りからの信頼を失ってしまう。 ・本当のことを言えない自分では嫌だ。	・教師が範読する。絵資料を提示しながら、場面状況が把握しやすいようにする。 ・Aについては、自分の過ちをごまかそうとする心情を「ばれなければよいだろう。」「叱られるのは嫌だ。」「自分たちは悪くない。」といった、自己中心的な考え方があることに気付かせる。さらに自分の中にもそういった弱さがあることに共感させる。 ・Bについては、「本当のことを言った方がいい」ということには気付いていても、すぐによりよい行動にできなくて迷ったり、Aの言う通りにしようしたりとする弱さに気付かせる。そして、周りの評価や言動に流されやすいBの心情に共感させる。 ・AやBの弱さに共感させることを通して、人間理解を深めることで、逆に誠実とはどういうことかに迫れるようにする。 ・Cの心情を深めるために、ノートに自分の考えを書き、グループでの話し合いを位置付ける。少人数で話し合うことにより、素直に心情を話し合うとともに、他者理解を深めるようにする。 【深めの発問】 ★Cは本当にそれで（正直に役員さんに言って）よかったのでしょうか。 ・話し合いを通して、Cの中にも葛藤する心情があったことを共感し合い、誠実な行動を支えた心情についてより自己理解を深められるようにする。
展開 後 段	◇「いつわりのない誠実な心をもつ」ためには、どうするとよいのか、自分の生活を振り返り話し合う。 ○今日学習して、「誠実」についてどんなことを思ったか。生活の中でどんなことを気を付けたいか。 ・誠実な行動を支えるものは、「正直な気持ち」だと思っていました。でも、今日の学習から周りの人に流されてしまう自分にも気付くことができました。流されずに、自分の気持ちに正直であることが誠実さにつながると分かりました。 ・誠実な行動のためには、「正直な気持ち」が大切だと思っていました。今日の学習から、やはり正直な気持ちが一番大切だと思いました。正直でないと、気持ちよく生活できないからです。そして、周りの人に流されずに、自分の正直な気持ちを貫くことが誠実だと思いました。	・「私たちの道徳」P38を提示し、誠実さを支える心情について、自分が授業の始めと比べてどう思っているかをノートに書いて、より自己理解を深め、振り返る。 ・自分の生活を振り返ることができるように、学級の足跡の掲示等の写真から日常生活の様子を提示する。 〈変容の見届け〉 ・自分の生活を振り返り、いつわりのない誠実な心をもつために、善悪の判断により、自分自身が正しいと思ったことは責任をもって行動することや周囲の評価を気にしないで正しいと思う行動をすることに気付き、誠実に明るい心で生活しようという気持ちをもっている。
終末	◇教師の説話を聞く。	

こわれたしまった さく 〔内容項目A－正直、誠実〕

今日は、地区のボランティア活動の日だ。三人は、地区の神社の掃除に出かけた。始めのうちはいっしょうけんめい掃除していた三人だったが、追いかけてこになっていた。神社の裏にあるさくをはさんでにげ合っているうちに、古くなっていたさくがたおれ、こわれてしまった。下の方から折れてしまっていて、直せそうにない。

三人は顔を見合わせた。

Aが言った。

「ないしょにしておこう。だれもこんな所まで来ないし、こわれたことなんて分からないよ。

今は、ぼくたちしかいないから、だれも来ないうちに行こう。」

Bは、だまったままだった。

Cは言った。

「…役員さんの所に行こう。」

5年2学期 道徳 実態分析・評価シート

内容項目	教科・領域・活動	内容	評価	よさや成長
A <				

〈2 学期所見〉

評価のしかた 視点 A 正直, 誠実

道徳の授業

- ・登場人物A, B, Cの気持ちを考え、発表することができたか。
- ・自分の生活を振り返り、他者の判断に左右されずに自分自身が正しいと判断したことに責任をもち、誠実に、明るい心で生活することができたか。

日常生活（班活動，登下校，掃除など）

- ・ 様々な活動の中で、自分自身の判断に責任をもち、明るい心で生活しているか。